



支援便り

令和4年12月発行 第4号
串木野養護学校 支援部

コロナ禍で迎える冬も今年で何回目になるのでしょうか。終息の兆しがなかなか見えませんが、みなさん体調にはくれぐれもご自愛ください。



1・2学期巡回相談，講師依頼等のまとめ

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	計
1学期	4	30	12	1	47
2学期	1	11	4	0	16
計	5	41	16	1	63

2学期の巡回相談におきましても、丁寧に対応していただきありがとうございました。主な相談内容については、1学期に多かった「通常の学級や特別支援学級に在籍する児童生徒への具体的な支援についての相談」に加え、「就学相談会を見据えた学びの場(就学先)についての相談」も多かったように思います。

また、各市、学校からの職員研修講師依頼を受け、1・2学期で計8件、講師として対応させていただきました。研修の依頼内容は、通常学級に在籍する支援が必要な児童生徒に対する支援のあり方、保護者との連携、インクルーシブ教育、発達検査、引継ぎの仕方・学校間連携についてなど、多岐にわたるものでした。御協力ありがとうございました。

ある相談事例から

「授業に集中が続き、姿勢がすぐ崩れてしまいます。
……時々、理由のない離席も見られ……」



2つの視点で考えてみましょうとお話しさせていただきました。

① 授業づくり（ユニバーサルデザインの考え方）の視点

- 集中が続きにくい授業になっていないか、授業の進め方を見直しましょう。

話を聞く、活動する、作業する、話し合うなど、様々な場面を設定していますか。受け身の場面が多い授業は、子どもの集中が途切れやすくなります。短い時間で活動を区切りメリハリをつけましょう。また、教材研究や教材の提示の仕方を工夫して、学ぶことが楽しいと思える授業にしましょう。

② 子どもの特性からの視点

- 目に付く行動の背景要因を探って、子ども理解に基づく支援をしましょう。

※ 集中が続かない原因は？

- ① 情報の取捨選択が困難で、様々な情報に過剰に反応しているのかも。
→ 教室環境を整理。特に黒板周りはすっきりと。掲示物の精選、カーテン利用で遮断。
- ② 言語理解や聴覚記憶の弱さから、指示や内容を理解できず、姿勢や集中が崩れるのかも。
→ 個別の言葉掛け。明確な言語指示（動詞をはっきり）。視覚支援も準備。
- ③ 授業に対する苦手意識があり、学習意欲がないのかも。
→ 導入部で活躍の場をつくり動機付けを。発問の仕方を工夫して参加しやすく。

※ 集中する時間の目標（5分→10分→15分・・・）を本人と話し合って立て、できたら必ず称賛し、「自分もできる」と実感がもてるようにしましょう。

※ 「合法的な離席」の場面をつくったり、姿勢が良い場面を見つけたらすかさず褒めたりして、長期的な視点で姿勢保持の力を育てましょう。